

浜の活力再生プラン  
(第2期)

## 1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID:1102030

組織名	奥戸地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 宮野 昭一 (奥戸漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の 構成員	奥戸漁業協同組合、大間町産業振興課、 青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所
オブザーバー	青森県漁業協同組合連合会

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	地 域：青森県大間町 漁業の種類：いか釣漁業・マグロ延縄漁業 (15 隻) 一本釣漁業・採介藻漁業 (14 隻)
-------------------	--

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

奥戸地区地域水産業再生委員会がある地域は、本州最北端大間町の西側に位置し津軽海峡に面した沿岸漁業が中心の地域であり、いか釣漁業、マグロ延縄漁業、一本釣漁業、採介藻漁業など多様な漁業が営まれている。しかし、当地域漁業者の主力魚種である回遊性魚類のクロマグロやスルメイカを漁獲する一本釣漁業、マグロ延縄漁業、いか釣漁業においては、漁獲量の減少や漁場形成位置の変動から日本海及び太平洋へと漁場を求めて移動する漁業者が多く、燃料使用量の増加による生産性の悪さが懸念され、更に、漁獲自体が不振であることから、冬期間マグロ漁に転換する漁業者が増えている。この燃油使用量の増大は他の漁業にも共通の課題となっており、クロマグロの漁獲規制も相まって当地域の水産業を取り巻く環境はより一層厳しい状況に置かれている。

この他、前浜の環境変化によりマコンブやアラメコンブの激減に加え、町が種苗生産したアワビの稚貝を放流しているが水揚げに繋がっておらず、放流後の追跡調査等による原因の究明が求められている。

## (2) その他の関連する現状等

奥戸地区は、本州最北端の西側に位置し、漁獲物を主要都市へ輸送する時間がかかるため、販路拡大が難しい地域になっている。また、幹線道路が一本しか無く、地震や津波、大雨等で通行止めとなった場合、地域は孤立してしまう。

マグロ漁業やいか釣漁業を継ぐ若者はいるものの、TAC等漁獲規制の中での漁業経営の難しさや、磯根資源の減少や高齢化による将来の漁業者減少による漁業生産への影響は目に見えており、深刻な状況になっている。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

#### (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

奥戸地区の主力である いか釣漁業と一本釣り漁業振興のため、第1期の取り組みを見直し、効率的で安定的な漁業経営が行われるよう取り組みの強化を図るとともに、環境変化等によるアワビ等の磯根資源減少の要因と効果的な水産物の増殖方法を調査し、資源回復に取り組み漁業所得の向上を図る。

○水産資源の持続的な利用を図るため、水揚時の規格遵守による資源管理を行うとともに、限られた漁獲物により安定した漁業収入を確保するため、鮮度保持の徹底による付加価値の向上や新規出荷ルートの開拓による魚価の向上に努める。

・漁業者は鮮度保持技術を習得し処理の徹底による付加価値向上対策を強化する。

- ・漁協は消費者ニーズに応じた処理と販売ルートを開拓し消費・流通の拡大を図る。
- ・漁協はイベント等を活用した集客と良質な水産物のPRによる消費拡大の強化を図る。

○漁協は、磯根資源の回復を図るための効果的な方法を調査し、町の種苗育成センターを活用した種苗放流を実施する。また、漁場の管理体制を強化し、定期的にモニタリングを実施することで取り組みをより確実なものとする。

- ・種苗育成センターで生産するアワビ、ナマコ及びコンブ種苗の効果的な放流方法を調査し、効果的な取り組みを構築する。
- ・漁場管理を徹底することにより資源の増加を図る。
- ・漁業者と協力し漁港等施設の空きスペースを活用した蓄養等による漁獲の増加を図る。

○漁業者は、効率的で安定した漁業経営の確立を図るため、船底清掃や減速航行の徹底、省エネ機器の導入による操業時の負荷の低減を図り、漁業用燃油の削減を図る。

- ・船底清掃と不要な積荷を降ろすことで負荷のかからない航行と徹底する。
- ・省エネ機器の導入を進め燃料費の削減を図る。
- ・出航時間を早め減速航行による燃料費の削減を図る。

### (3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

組合の共同漁業権行使規則及び行使計画書により、漁業期間、漁業の方法、漁獲サイズ等を制限しているほか、県資源管理指針に基づく資源管理計画を策定し、休漁日を設定する等資源保護に努めている。

### (4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度）

以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて、見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取組により、基準年に対し9.3%の所得向上を図る。</p> <p>①水産物の付加価値向上</p> <p>1) いか釣漁業者は、イカの漁獲時に船上にて低温管理（5℃以下）を徹底すべく、天候や気温に合わせて適切な施氷により速やかな発泡スチロール箱への箱詰めを行う。解氷水に触れることでおこる白色化を避けるため、穴あきの箱を使用する等の対策を徹底する。対策の不十分な漁業者に対しては漁協が指導を行い本プランの目標達成を確実なものとするよう努めさせる。</p> <p>2) 一本釣漁業者は、クロマグロについて、漁獲後船上において速やかな内臓処理・神経抜き作業を行うとともに海水氷による低温管理を徹底すべく、漁協が主催する技術講習会においてこれら作業にかかる技術の習得に努める。併せて、「大間まぐろ」と同じ漁場で漁獲するクロマグロであることをPRし、市場別にクロマグロが高値で取引される規格の調査を行い、その結果に基づき、規格別に出荷先を選択することで魚価の向上を図る。さらに、冬漁期は外気が氷点下になることも多々あるため、肉厚の薄い腹の部分凍結させないように、施氷時に使用する砕氷の大きさを選別の上、腹内にはグリーンパッチで保護した後ビニール袋を使用し細氷を詰め、魚体の周囲には荒い氷を使用することで保温管理の徹底に取り組む。</p> <p>タイについては、漁業者は高鮮度出荷を図るべく、魚体サイズ1.5kg以上のものについて血抜き作業後すぐに下氷をして、海水を少量散布し、ビニールシートを被せて軽く上氷をすることで鮮やかな色が長く保</p>
---------------------	--

	<p>つ処理を徹底させる。</p> <p>マスやブリなどのその他魚種については、漁業者は漁協と協力して定期的に販売先の購入時の鮮度状態の実態および産地側への要望調査を行い、その結果に基づき、血抜き・海水氷処理（海水1に対し0.5以上の氷を使用する）等の処理ルールを定める。また、漁業者は漁協が主催する技術講習会に参加し処理技術の習得に努めることでルールの徹底を図る。</p> <p>②地先漁場の回復</p> <p>町営種苗育成センターで生産されるアワビを活用して資源回復を図るため、アワビの種苗放流で成果を上げている地域（千葉県を想定）を訪問し、放流に適したサイズ、時期、環境等を調査し、その結果を元に、漁業権区域内に整備されている増殖場を利用し効果的な種苗放流と管理計画を策定する。この取り組みを効果的に行うため過去に整備した魚礁の状況を調査しアワビの育成に必要な改善措置を行う。</p> <p>ナマコについては、漁港等に採捕禁止区域を設定し、規格に満たないものが漁獲された場合、漁協が引き取って放流し、1年間蓄養したあと採捕することで漁獲の増加を図る。</p> <p>③漁業と観光による取り組み</p> <p>漁協・町・観光協会・商工会等は、漁業者の協力を得て「ブルーマリネフェスティバル」「大間町産業祭」等のイベントを利用して、来訪者に対して、奥戸漁協に水揚げされるクロマグロとブランド化されている「大間まぐろ」との食べ比べ等により、同じ漁場で漁獲される品質の良いクロマグロであることをPRし知名度の向上を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①燃油使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、定期的な船底清掃の実施や積荷の削減により、航行時の負荷を低減し燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は、出航時間を早め減速航行により燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は省エネ対応の船内機等の導入により燃油消費量を抑制する。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>浜の活力再生プラン推進事業 省エネ機器等導入推進事業</p>

2年目（平成32年度）

漁業収入向上のための取組	<p>以下の収入向上の取組により、基準年に対し9.4%の所得向上を図る。</p> <p>①水産物の付加価値向上</p> <p>1) いか釣漁業者は、イカの漁獲時に船上にて低温管理（5℃以下）を徹底すべく、天候や気温に合わせて適切な施氷により速やかな発泡スチロール箱への箱詰めを行う。解氷水に触れることでおこる白色化を避けるため、穴あきの箱を使用する等の対策を徹底する。対策の不十分な漁業者に対しては漁協が指導を行い本プランの目標達成を確実なものとするよう努めさせる。</p> <p>2) 一本釣漁業者は、クロマグロについて、漁獲後船上において速やかな内臓処理・神経抜き作業を行うとともに海水氷による低温管理を徹底すべく、漁協が主催する技術講習会においてこれら作業にかかる技術の習得に努める。併せて、「大間まぐろ」と同じ漁場で漁獲するクロマグロであることをPRし、市場別にクロマグロが高値で取引される規格の調査を行い、その結果に基づき、規格別に出荷先を選択することで魚価の向上を図る。さらに、冬漁期は外気が氷点下になることも多々あるため、肉厚の薄い腹の部分を凍結させないように、施氷時</p>
--------------	---

	<p>に使用する砕氷の大きさを選別の上、腹内にはグリーンパッチで保護した後ビニール袋を使用し細氷を詰め、魚体の周囲には荒い氷を使用することで保温管理の徹底に取り組む。</p> <p>タイについては、漁業者は高鮮度出荷を図るべく、魚体サイズ1.5kg以上のものについて血抜き作業後すぐに下氷をして、海水を少量散布し、ビニールシートを被せて軽く上氷をすることで鮮やかな色が長く保つ処理を徹底させる。</p> <p>マスやブリなどのその他魚種については、漁業者は漁協と協力して定期的に販売先の購入時の鮮度状態の実態および産地側への要望調査の結果に基づき、血抜き・海水氷処理（海水1に対し0.5以上の氷を使用する）等の処理ルールを定める。また、漁業者は漁協が主催する技術講習会に参加し処理技術の習得に努めることでルールの徹底を図る。</p> <p>②地先漁場の回復</p> <p>町営種苗育成センターで生産されるアワビを活用して資源回復を図るため、前年の調査を元にアワビ種苗の取り組み方法の改善を図る。また、漁協はアワビの餌を確保するためワカメ養殖をしている佐井村からワカメの種糸を購入し魚礁周辺に投入する。</p> <p>ナマコについては規格に満たないものが漁獲された場合、漁協が引き取り漁港等に採捕禁止区域を設定し放流し1年間蓄養したあと採捕することで漁獲の増加を図る。</p> <p>③漁業と観光による取り組み</p> <p>漁協・町・観光協会・商工会等は、漁業者の協力を得て「ブルーマリンフェスティバル」「大間町産業祭」等のイベントを利用して、一般来訪者に対して、奥戸漁協に水揚げされるクロマグロとブランド化されている「大間まぐろ」との食べ比べ等により、同じ漁場で漁獲される品質の良いクロマグロであることをPRし知名度の向上を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、定期的な船底清掃の実施や不要な積荷を減らすことにより、航行時の負荷を低減し燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は、出航時間を早め減速航行により燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は省エネ対応の船内機等の導入により燃油消費量の抑制を行う。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省エネ機器等導入推進事業</p>

3年目（平成33年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取組により、基準年に対し9.4%の所得向上を図る。</p> <p>①水産物の付加価値向上</p> <p>1) いか釣漁業者は、イカの漁獲時に船上にて低温管理（5℃以下）を徹底すべく、天候や気温に合わせて適切な施氷により速やかな発泡スチロール箱への箱詰めを行う。解氷水に触れることでおこる白色化を避けるため、穴あきの箱を使用する等の対策を徹底する。対策の不十分な漁業者に対しては漁協が指導を行い本プランの目標達成を確実なものとするよう努めさせる。</p> <p>2) 一本釣漁業者は、クロマグロについて漁獲後船上において速やかな内臓処理・神経抜き作業を行うとともに海水氷による低温管理を徹底すべく、漁協が主催する技術講習会においてこれら作業にかかる技術の習得に努める。併せて、「大間まぐろ」と同じ漁場で漁獲するク</p>
---------------------	--

	<p>ロマグロであることをPRし、市場別にクロマグロが高値で取引される規格の調査を行い、その結果に基づき、規格別に出荷先を選択することで魚価の向上を図る。さらに、冬漁期は外気が氷点下になることも多々あるため、肉厚の薄い腹の部分を凍結させないように、施氷時に使用する砕氷の大きさを選別の上、腹内にはグリーンパッチで保護した後ビニール袋を使用し細氷を詰め、魚体の周囲には荒い氷を使用することで保温管理の徹底に取り組む。</p> <p>タイについては、漁業者は高鮮度出荷を図るべく、魚体サイズ1.5kg以上のものについて血抜き作業後すぐに下氷をして、海水を少量散布し、ビニールシートを被せて軽く上氷をすることで鮮やかな色が長く保つ処理を徹底させる。</p> <p>マスやブリなどのその他魚種については、漁業者は漁協と協力して定期的に販売先の購入時の鮮度状態の実態および産地側への要望調査を行い、その結果に基づき、血抜き・海水氷処理（海水1に対し0.5以上の氷を使用する）等の処理ルールを定める。また、漁業者は漁協が主催する技術講習会に参加し処理技術の習得に努めることでルールの徹底を図る。</p> <p>②地先漁場の回復</p> <p>町営種苗育成センターで生産されるアワビを活用して資源回復を図るため、アワビの稚貝にタグを付け過去に設置したアワビ魚礁を活用しアワビシェルターとなる育成場所を確保し、放流アワビの生残、成長の追跡調査を行う。また、漁協はアワビの餌を確保するためワカメ養殖をしている佐井村からワカメの種糸を購入し魚礁周辺に投入する。</p> <p>ナマコについては規格に満たないものが漁獲された場合、漁協が引き取り漁港等に採捕禁止区域を設定し放流し1年間蓄養したあと採捕することで漁獲の増加を図る。</p> <p>③漁業と観光による取り組み</p> <p>漁協・町・観光協会・商工会等は、漁業者の協力を得て「ブルーマリンフェスティバル」「大間町産業祭」等のイベントを利用して、一般来訪者に対して、奥戸漁協に水揚げされるクロマグロとブランド化されている「大間まぐろ」との食べ比べ等により、同じ漁場で漁獲される品質の良いクロマグロであることをPRし知名度の向上を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、定期的な船底清掃の実施や不要な積荷を減らすことにより、航行時の負荷を低減し燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は、出航時間を早め減速航行により燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は省エネ対応の船内機等の導入により燃油消費量の抑制を行う。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>浜の活力再生プラン推進事業 省エネ機器等導入推進事業</p>

4年目（平成34年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取組により、基準年に対し9.4%の所得向上を図る。</p> <p>①水産物の付加価値向上</p> <p>1) いか釣漁業者は、イカの漁獲時に船上にて低温管理（5℃以下）を徹底すべく、天候や気温に合わせて適切な施氷により速やかな発泡スチロール箱への箱詰めを行う。解氷水に触れることでおこる白色化を避けるため、穴あきの箱を使用する等の対策を徹底する。対策の不十分な漁業者に対しては漁協が指導を行い本プランの目標達成を確実なものとするよう努めさせる。</p>
---------------------	---

	<p>2) 一本釣漁業者は、クロマグロについて漁獲後船上において速やかな内臓処理・神経抜き作業を行うとともに海水氷による低温管理を徹底するべく、漁協が主催する技術講習会においてこれら作業にかかる技術の習得に努める。併せて、「大間まぐろ」と同じ漁場で漁獲するクロマグロであることをPRし、市場別にクロマグロが高値で取引される規格の調査を行い、その結果に基づき、規格別に出荷先を選択することで魚価の向上を図る。さらに、冬漁期は外気が氷点下になることも多々あるため、肉厚の薄い腹の部分を凍結させないように、施氷時に使用する砕氷の大きさを選別の上、腹内にはグリーンパッチで保護した後ビニール袋を使用し細氷を詰め、魚体の周囲には荒い氷を使用することで保温管理の徹底に取り組む。</p> <p>タイについては、漁業者は高鮮度出荷を図るべく、魚体サイズ1.5kg以上のものについて血抜き作業後すぐに下氷をして、海水を少量散布し、ビニールシートを被せて軽く上氷をすることで鮮やかな色が長く保つよう処理を徹底させる。</p> <p>マスやブリなどのその他魚種については、漁業者は漁協と協力して定期的に販売先の購入時の鮮度状態の実態および産地側への要望調査を行った結果に基づき、血抜き・海水氷処理（海水1に対し0.5以上の氷を使用する）等の処理ルールを定める。また、漁業者は漁協が主催する技術講習会に参加し処理技術の習得に努めることでルールの徹底を図る。</p> <p>②地先漁場の回復</p> <p>町が運営する種苗育成センターで生産されるアワビを活用して資源回復を図るため、アワビの稚貝にタグを付け過去に設置したアワビ魚礁を活用しアワビシェルターとなる育成場所を確保し、放流アワビの生残、成長の追跡調査を行う。また、漁協はアワビの餌を確保するためワカメ養殖をしている佐井村からワカメの種糸を購入し魚礁周辺に投入する。</p> <p>ナマコについては規格に満たないものが漁獲された場合、漁協が引き取り漁港等に採捕禁止区域を設定し放流し1年間蓄養したあと採捕することで漁獲の増加を図る。</p> <p>③漁業と観光による取り組み</p> <p>漁協・町・観光協会・商工会等は、漁業者の協力を得て「ブルーマリンフェスティバル」「大間町産業祭」等のイベントを利用して、一般来訪者に対して、奥戸漁協に水揚げされるクロマグロとブランド化されている「大間まぐろ」との食べ比べ等により、同じ漁場で漁獲される品質の良いクロマグロであることをPRし知名度の向上を図る。併せて漁協女性部と連携し、漁協は販売戦略を策定し、もずくをはじめとする奥戸産水産物の知名度向上を図り販売促進に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、定期的な船底清掃の実施や不要な積荷を減らすことにより、航行時の負荷を低減し燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は、出航時間を早め減速航行により燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は省エネ対応の船内機等の導入により燃油消費量の抑制を行う。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省エネ機器等導入推進事業</p>

5年目（平成35年度）

取組の最終年度であり、前年度に引続き行うが、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取組状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

<p>漁業収入向</p>	<p>以下の収入向上の取組により、基準年に対し10.36%の所得向上を図</p>
--------------	--

<p>上のための取組</p>	<p>る。</p> <p>①水産物の付加価値向上</p> <p>1) いか釣漁業者は、イカの漁獲時に船上にて低温管理（5℃以下）を徹底すべく、天候や気温に合わせて適切な施氷により速やかな発泡スチロール箱への箱詰めを行う。解氷水に触れることでおこる白色化を避けるため、穴あきの箱を使用する等の対策を徹底する。対策の不十分な漁業者に対しては漁協が指導を行い本プランの目標達成を確実なものとするよう努めさせる。</p> <p>2) 一本釣漁業者は、クロマグロについて漁獲後船上において速やかな内臓処理・神経抜き作業を行うとともに海水氷による低温管理を徹底すべく、漁協が主催する技術講習会においてこれら作業にかかる技術の習得に努める。併せて、「大間まぐろ」と同じ漁場で漁獲するクロマグロであることをPRし、市場別にクロマグロが高値で取引される規格の調査を行い、その結果に基づき、規格別に出荷先を選択することで魚価の向上を図る。さらに、冬漁期は外気が氷点下になることも多々あるため、肉厚の薄い腹の部分を凍結させないように、施氷時に使用する砕氷の大きさを選別の上、腹内にはグリーンパッチで保護した後ビニール袋を使用し細氷を詰め、魚体の周囲には荒い氷を使用することで保温管理の徹底に取り組む。</p> <p>タイについては、漁業者は高鮮度出荷を図るべく、魚体サイズ1.5kg以上のものについて血抜き作業後すぐに下水をして、海水を少量散布し、ビニールシートを被せて軽く上氷をすることで鮮やかな色が長く保つ処理を徹底させる。</p> <p>マスやブリなどのその他魚種については、漁業者は漁協と協力して定期的に販売先の購入時の鮮度状態の実態および産地側への要望調査を行い、その結果に基づき、血抜き・海水氷処理（海水1に対し0.5以上の氷を使用する）等の処理ルールを定める。また、漁業者は漁協が主催する技術講習会に参加し処理技術の習得に努めることでルールの徹底を図る。</p> <p>②地先漁場の回復</p> <p>町が運営する種苗育成センターで生産されるアワビを活用して資源回復を図るため、アワビの稚貝にタグを付けし生残、成長の追跡調査を行う。また、漁協はアワビの餌を確保するためワカメ養殖をしている佐井村からワカメの種糸を購入し魚礁周辺に投入する。</p> <p>ナマコについては規格に満たないものが漁獲された場合、漁協が引き取り漁港等に採捕禁止区域を設定し放流し1年間蓄養したあと採捕することで漁獲の増加を図る。</p> <p>③漁業と観光による取り組み</p> <p>漁協・町・観光協会・商工会等は、漁業者の協力を得て「ブルーマリンフェスティバル」「大間町産業祭」等のイベントを利用して、一般来訪者に対して、奥戸漁協に水揚げされるクロマグロとブランド化されている「大間まぐろ」との食べ比べ等により、同じ漁場で漁獲される品質の良いクロマグロであることをPRし知名度の向上を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①燃油使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、定期的な船底清掃の実施や不要な積荷を減らすことにより、航行時の負荷を低減し燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は、出航時間を早め減速航行により燃油消費量を抑制する。</li> <li>・漁業者は省エネ対応の船内機等の導入により燃油消費量の抑制を行う。</li> </ul>
<p>活用する支</p>	<p>浜の活力再生プラン推進事業</p>



援措置等	省エネ機器等導入推進事業
------	--------------

(5) 関係機関との連携

取り組みの効果が十分に発揮されるよう、行政（青森県、大間町）、系統団体（青森県漁業協同組合連合会）との連携を強固にするとともに、県内外の流通、販売業者、飲食店等についても新たな連携を図る。特に町内においては、町、漁協、商工会等で協力し、産業祭等のイベントを通じクロマグロをはじめとする奥戸産水産物の価値向上を図る。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10.51%以上	基準年	平成25年度～平成29年度（5中3平均） : 漁業所得
	目標年	平成35年度 : 漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

別添資料参照

(3) 所得目標以外の成果目標

アワビ種苗放流による 漁獲量増 (67.5 k g)	基準年	平成25年度～平成29年度（5中3平均） : 82.0 k g
	目標年	平成35年度 : 149.5 k g

・アワビの種苗放流による資源管理方法を調査研究し、地先漁場や増殖礁の有効活用によって取り組み最終年には年間 149.5 k g 以上の漁獲を目指す。

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

別添資料取組3参照

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
浜の活力再生プラン推進事業	・アワビ増殖事業 効果的なアワビの種苗放流方法を調査し、計画を立て実施するとともに、モニタリング調査を行い効果の検証と計画の見直しを行う。取り組みを通じてアワビの増加を図る。
省エネ機器等導入推進事業	省エネ機器を導入することにより、コストの削減を図り、漁業所得を確保する。